

## 食料・農業・農村政策審議会畜産部会の開催について

6月23日午前中、食料・農業・農村政策審議会 畜産部会（令和3年度第1回）が、福永副理事長が委員として出席の下、Web方式で開催されました。

今般の畜産部会では、(1) 畜舎等の建設等及び利用の特例に関する法律の概要、(2) みどりの食料システム戦略の概要、(3) 持続的な畜産物生産のあり方検討会の中間とりまとめについて、当局からの説明を受け、活発な意見交換が行われました。福永副理事長からも、次の様な発言がありましたので報告します。当局からの回答は議事録が公表になった後にお伝えします。

### 【福永副理事長の発言要旨】

- 1 農林水産省には、繁殖牛の増頭対策、簡易牛舎の整備等、肉用牛生産基盤の強化に向け各種施策を推進頂き大変有り難く思っています。生産者も関係者で連携を図りながら精一杯努力して行きたいと考えています。
- 2 さて、「みどりの食料システム戦略（みどりの戦略）」については、国際的な動きに呼応し、迅速に方向性を取りまとめて頂いたことに大変ありがたく思います。
- 3 肉用牛生産者も、「みどりの戦略」に示された行程表に基づき、温室効果ガスの削減に努力していきたいと思います。
- 4 特に「みどりの戦略」の中で耕種部門の課題となっている、化学肥料を減らそうとする場合には、畜産からの「良質な堆肥」の供給量をさらに増やしていく必要があるのではないかと考えています。
- 5 そういった中で、先日、環境白書が公表されました。「食の一つの選択肢としての代替肉」というコラム欄が掲載されました。農水省も監修され、柔らかい表現となっていることには感謝したいと思いますが、私が気になりますのは、「世界的な環境志向等を背景に感心が高まっており、(中略)代替肉等の市場創出を推進することが必要です。」との記述です。
- 6 「選択肢の1つとしての代替肉」を否定するものではありませんが、国民に対し、「日本の畜産は地球環境を破壊している。」と受け取られかねないということを、大変憂慮しています。
- 7 農林水産省の方々には、「みどりの戦略」の周知に当たり、国民に謝ったメッセージが広がっていくことを未然に防いで頂きたいと思います。よろしく申し上げます。